アトピー性皮膚炎の検査　～自分が本当に良くなっているのかどうか理解しながら治療しましょう～

検査は疾病の原因を特定し、対処法を見出す手がかりとなります。
ここではアトピー患者さんに行う検査にはどんなものがあり、その結果をどうとらえればよいのかを説明していきます。

① 抗体測定法：RAST,MAST,FAST　Ⅰ型アレルギーの検査

IgE 抗体はⅠ型アレルギー（即時型、アトピー型アレルギー）を起こす抗体です。RAST,MAST,FAST は、個々のアレルゲン（卵白、牛乳、ダニなど）に対する抗体を測定します。スコア２以上であれば一応陽性とされます。2 以上あれば血液中にその食物に対する IgE 抗体をもっていることはまちがいないのですが、それを食べたらアトピーがでるかどうかは別の問題です。アトピー治療で有名な高雄病院では過去に入院患者さんを対象にきっちりと除去食をして、食物アレルギーの可能性を調査しました。その結果、成人はもちろん小学生以上のアトピー患者さんの場合、RAST スコアが 2 から 3 あっても、食物アレルギーによる症状はほとんど起こさないことがわかりました。赤ちゃんの場合は、10 人に 1 人位の確率で食物アレルギーが関与しています。

② 総 IgE 測定：RIST など　Ⅰ型アレルギーの検査

単位量の体液中に存在する免疫グロブリンとしての IgE の総量が総 IgE です。成人の正常値は 250IU/ml 以下くらいです。正常の場合、血清 IgE レベルは 5 才で成人の 2/3 に達します。IgE レベルは、アトピー疾患（アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、気管支喘息）寄生虫感染などで増加します。

一般には、IgE が高値であればアトピー体質（I 型アレルギーを起こしやすい物質）ということになります。しかし、成人アトピー性皮膚炎の患者さんの約 2 割は、IgE が正常でも発症しています。このデータは、アトピーは単純にⅠ型アレルギーのみで発症しているのではないということの一つの根拠となっています。ですから IgE だけでアトピーを語ることはできません。

一方、当初 880IU/Ml と軽度高値だった IgE が、アトピーの全身的な悪化とともに、わずか三か月で 7,100 となり、半年後には 13,500 となり、今度はアトピーの改善とともに徐々に減っていき、1 年後には 5,400、2 年後には 2,600 まで減った例もあります。こういう変化を示す例もときどきあります。

このように、IgE の数値は変動するものなので、一定の参考にはなりますが、この数字だけ見てがっくりきたり、喜んだりしなくてもいいということです。

③ LDH　皮膚炎の広がりを示す

LDH の数値がいちばん参考になります。施設により正常値は若干異なりますが、平均して 300～400IU/ml 程度です。血清 LDH はその時点での皮膚炎の広がりをよく示しています。

顔だけが赤くても上昇は軽度ですが、全身に皮膚炎があれば高値を示します。リバウンドで全身が赤くはれ上がって黄汁が出ているような時は、800,900～1,000 以上にもなります。高雄病院では、リバウンドで 1,700IU/Ml を呈した人が最高値でした。

リバウンド状態でも、たとえばステロイド外用剤をぬって皮膚炎をコントロールすれば、ものの 2,3 日で 1,000 あった LDH が 600～700 程度、さらに数日で 400～500 程度にどんどん改善していきます。

④ 好酸球　Ⅰ型アレルギーの検査

施設により正常値が若干異なりますが、白血球分画で 3～6%以下、絶対数で 200 個～500 個/μl くらいです。皮膚炎の症状が強い時は、30～40%に及ぶ増加をみることもあります。しかし、LDH ほどリアルタイムに皮膚炎の広がりを反映しているわけではありません。LDH より遅れたりずれたりします。

最終的にはアトピーが落ち着けば、しばらくして好酸球も落ち着くようです。したがって臨床的には、LDH のほうが役に立つ検査です。

⑤ 白血球像

白血球の中でリンパ球が 35%以上の時は免疫が保たれていますが、35%以下の時は免疫低下を疑います。

⑥ 漢方薬を服用している方へ　GOT,GPT,γ-GTP,BUN,Cr

漢方薬を服用している人は、LDH 以外に GOT,GPT,γ-GTP,BUN,Cr を測定する必要があります。この検査をすることで、薬害のスクリーニング検査ができ、血液中や組織中のビタミンの必要量を測定することができます。GOT、GPT の値がそれぞれ 22 くらいの時が、最もビタミンのバランスがとれているときです。